



艦隊悪堕ち計画

他人の艦娘を自分のものに

ようこそ、提督♪

あ、あなたは榛名の「元」提督でしたね…

だって榛名のいまのご主人様はこの方ですもの！

ねえ、ご主人様♥

榛名のこの格好もいまのご主人様に用意してもらったんですよ？

どうですか、榛名にはちよっと派手な感じもしますけれど…でも、

素敵でしょう？

くは。あ♥

ご主人様、今日もまた夜戦ですか？

ええ、榛名でいいなら、お相手しましょう！

提督キはいいのかって？

ご主人様は優しいのですね♥

榛名にまで気を遣ってくれて…

でも『元』提督のことなんてどうでもいいですから、

お願いします♥

はい、榛名は大丈夫です♥



あはんっ、ご主人様の極太棲艦チンポ入ってきましたあー♡
はあーん、**あん**一瞬で私の弱いところを見抜いたのですね…
ご主人様、**あん**ありがとうございます♡

ほあん

そこ♡そこですっ♡ ああ、ご主人様の逞しさを、

榛名の膣内でたくさん感じます♡

お心遣い、ありがとうございます♡

ズブッ

ズブッ

いやああああああんっ♡♡♡ ああんっ…はあ、はあ♡

ご主人様の主砲の連続発射で

全身をこんなにしてもらえるなんて…様名、感激です！

どうでした提督…私、幸せそうだったでしょう？

だから鎮守府のみんなにもこの幸せを分けてあげたいと思って…

大丈夫、提督はそこでさっきの様名のことでも思い出して

シコっていてください♡

ビクッ

ビクッ

ビクッ



榛名!

いざ、

出撃します♥

勝利を……ご主人様に♥♥♥



一
週
間
後
：

榛名.. 高速戦艦、榛名、帰還しました♥

翔鶴.. こんなことやめてください、榛名さん!

ねえ、榛名さんってば、聞いてますか?

榛名.. うふふ.. ご主人様のご命令通りの娘を連れてきました。

よろしくお願い致します♥

翔鶴.. ご主人様って.. あなた、榛名さんになにをしたんですか!?! 私をいっただいどうするつもりですか!

ハア

ハア

カアアッ

翔鶴..はあはあ...ご主人様...?
こんな格好で、もしかして...?

あの、なんででしょう?

榛名..翔鶴さんも、もうご主人様にメロメロですね...

今日はご主人様の温情でふたりいっぺんに相手にしてもらえるんですよ?

おちんぼセックス、翔鶴さんも心待ちにしてたでしょう♡

翔鶴..まあ、本当ですか! 私、ここ数日放置されただけで...

もう、あそこが疼いてしかたないんです...!

だから、はやく、お願いします...翔鶴のいやらしいおまんこに...

ご主人様のぶっといおちんぼ、お願いしますうっ♡



翔鶴：んはああああっ♡ 来ましたあああっ！！！

ご主人様の太いおちんぼが、私の奥にまで入ってきます…ん、んあああ♡♡

榛名：あああら、さすがご主人様ですね…

翔鶴さんの弱点もすぐに見抜くなんて♡

翔鶴さん、ご主人様のおちんぼはいかがですか？

レロッ

翔鶴：はあ…はあ…っ、こんなの一瞬でげ、撃沈しちゃう♡

私の気持ちいいところに直撃弾撃ち込まれて、んっ、んっ…んはあんっ♡

榛名：うふふ、そんなに腰をひねって、よがられたら榛名はなにも言えません…

しかたないから榛名はご主人様の乳首で我慢しますね！ ああむ、れろれろ…♡

翔鶴：はあん…ああん、あはんっ♡ はああ…いやあ…ん♡

私って、感じやすいのかしら…ねえ、瑞鶴？

榛名：もう、翔鶴さんだったらどこを見ているのかしら…？

ここに妹さんはいませんか♡

ズ

ズ

おほ♡

あん♡

翔鶴：ああ、あっ、あっ！？

出るのですね…でしたらぜひ私の体に！

ご主人様のどろどろの精液を、

私の体にぶっかけてください…っ♡

ハア

ハア

ハア

ハア

榛名：ああん、翔鶴さんだけずるいですよ…

ご主人様、榛名の顔にもたくさんかけていただけますか♡

翔鶴：ああ、熱いっ！ はああん、私イっちやうっ♡

体が火照って、私のオマンコびちゃびちゃにぬれちゃいますーっ♡

榛名：ああん、ザーメンかかっています…

ご主人様はやはり優しいのですね、榛名にまで気を遣ってくれて♡

ビクッ



翔鶴の心の声：フフツ…私とつても幸せよ、

ねえ、瑞鶴♡…そうだ！

あなたにもすぐにこの幸せをわけてあげるわね、

楽しみにしててね…瑞鶴♡



ここどこですか？ どうしておじさんは服脱いでるんですか？

えつと…おじさん、それ本当は挨拶じゃないですよね？

ダメ、ですよね？ ねえ？ ねえ！

?

?

ひゃあ?! ううう…やだやだ! もおー、なにこのヌルヌル!?
あれ…ろーちゃん、だんだん体が熱くなってきましたって…あつ!

ビリン

いや、だめえ…なんだかるーちゃんのおっぱいと

あそこがかゆくなって…ええ!?

ろーちゃんこのまま二週間も、ヌルヌルに漬けるって?

そんなのろーちゃん、絶対耐えられるわけないって…っ!!!

クッ
人ロオへ



もお、ご主人様、またろーちゃんが挨拶するんですかって…
ハルナのようにはいかないけど、ろーちゃん頑張るって、がるるー♡
ええ、ろーちゃんが一番ですか？ Danke! ですって！
あとでハルナに自慢しよーっと♡

はあ〜♪ ローション来ましたたつて…ろーちゃん、
このヌルヌル大好きなんですつて♪

んっ♡

はっ♡

むう、ろーちゃん欲しがりじゃないですつて!

だいたいろーちゃんをこんなに変態潜水艦にしたのはご主人様ですつて♪
ご主人様はやくはやく、ろーちゃんもう我慢できないですつて♪

ニルニル

ご主人様おちんぼ、発見！ さあいきますよ…やんっ♡

ひゃん、ああんー♡ ご主人様のおちんぼって…すっぴん！

極太ちんぼで、感じちゃいますって…あはあんっ、 Danke' Danke'♡

あっ♡

ほかん♡

ふふーん、ろーちゃんの日焼けおまんこが

気持ちよくて淫ちやいらそうなんですか？

いらですよ♡ てー、てー♡

パチン

パチン



んはあああつ♡ つ、やられちゃった…♡

まだ大丈夫だけど…ご主人様のどろどろザーメン、
ろーちゃんにいっぱいかかっています♡ ピクッ♡

はあ♡

はあ♡

ピクッ♡

っ、ちよつとご主人様のザーメンの匂いだけでイキそうになってるけど、
ろーちゃんががんばるって、はい！ 夜はこれからですって♡



私を捕まえてどっつするつもりよ？ あ、こちら…さ、触らないで！
その汚いものをこすりつけないで！
くっ、くっ、ちっくしょっ…この私が、ここまでやられるなんて…。

キッ

スッ

スッ



なっ！？ いやです、そんなもの…入るわけないでしょう…

いっ、いやあああ！

はっ、これから毎日犯してやるですっつてー！？

ビクッ



ズ
ブッ

そんなことされたらいくら私が重巡だからって、さすがに…駄目よ、

私はあなたみたいなのに負けたくないんだから…っ！

ビクッ

その後…



ああん…ご主人様♥ 今夜もまたですか？

んっ♥ まあ、ご主人様の心を掴むためにはこういふことも必要よね…

わかりましたあー！

重巡足柄、しっかりと奉仕するわよ♥



えっ、おねだりですか？ わかりました♡ では…ご主人様♡
狼じゃなくて、ただの雌犬になりさかった足柄の
このトロトロのおマンコを、その雄々しいおちんぼで舐けてください♡

ああ、おちんぽきたあ♡ これよ、これがほしかったの♡

自分のおマンコが熱くなるこの瞬間が、私は一番好き♡

みなぎってきたわ…ねえ！ 私も動いていいかしら!?

素晴らしいわ♡

あん♡

はあ♡

ん♡

ずじじいっ



んにゃー、精液でてる♡
クンクン、はぁー♡
いっけいっけいっけい♡

ハァ♡

ハァ♡

ド...

ビュルル!!



ねえ、今度榛名たちを出撃させるときは私も一緒に出撃させて？
ご主人様のため、この足柄存分に働いて見せるわ♡
だからご主人様あ、また私にご褒美ちょうだいね♡

あんたのすること、その…一週間耐えたら、
本当にみんなを解放してくれるんでしょっかね？

絶対解放してよね、約束よ！

だったらどうぞ、ご勝手に…ふんっ、だ！

✖

痛っ…ううん！ その程度なの？

へ、へえ…全然、たいしたことないね！

降参するならいまのうちよ？

ビクッ

ビクッ

このくらいの痛み、一週間耐えてみせる…

みんな絶対に元に戻してあげるからね！

ズバッ



一週間後……

ご主人様〜♪

何？

夜戦するの？

んふふ、もちろんいいよ〜♪

え、私が初日で夜戦大好きになった話…

もう、その話はやめようよ〜！

うう、だってあんなに気持ちいいことされたら…
一回もたなかつたんだもん、仕方ないでしょ…♡

ハア、ハア♡ ほら見て、私のこゝこゝ♡

服の上からも愛液が垂れてきちゃった♡

さあ、私と夜戦しよ♡

ずっと、ご主人様との夜戦楽しみにしてたんだよ…

だから早く夜戦♡

ハア♡

ハア♡

んん。

んはあ〜♡ ご主人様、もう出ちやつたの？

当然の結果ね…いいのいいの、そんなに褒めなくっても♡
その代わり、今夜はずっと夜戦してっ♡
だって、まだまだ私は満足してないよ？

あん♡

はあ♡

ゴロ…





まあそう焦んないですよ、夜は長いよ♡

ねえ、ご主人様？ まだまだ、夜は長いんだからさ♡

グス...

あ、あの...本当にこれを挟まないといけなんでしょうか...?
(うう、はっ、恥ずかしいよお...)

だけど捕まった皆さんを助けるために我慢しなきゃ...
それじゃ...潮、頑張ります...うう、臭いよお...



ううっ…も、もう…やめてください…ひゃあああああー？

な、なにが白くてねばねばしたものが…

あうっ、べとべととして気持ち悪い…

ビュ
し
し

えっ？ わ、私のこと気に入ったから近代改修してやるって…

あ、あの、出来れば遠慮したい…です。

あ、あの、どこへ…私どこに連れてかれちゃうんですか…？
ひっ、ひあああっ！？

ハァム

これが…これが近代化改装…？

これなら私でも…お役に立てるでしょ…？

あぁっ、あまり見ないでください…恥ずかしいよぉ…♡

はぁ……ありがとうございます♡

あの、潮、いっぱい気持ちよくなってもらえるように

頑張りますね♡



潮、おちんちん発見しちゃいました…

私のおっぱいの谷間から頭、覗かせてます♡

ピー
ブー
ピー

ヌルッ

ヌルッ

ご主人様の、とっっても…か、可愛いです♡

あの、私のよだれつけて擦ったら

もっと気持ちよくなるでしょう…か…ん…づ…べ…え…♡

ハァ

ずち

ぬち

ハァ

はあはあ♥ ご主人様、もう出そうなんですか？

できればこのまま私に全部出してくださーい♥

私のおっぱいで、ご主人様の全部受け止めます！



ひやあああつ♪♪♪ 出てますっ、温かくて素敵です♪

こんなにたくさん出ちゃいました…

あ、あの、やっぱりご主人様ってすごいですね…

私、興奮しちゃいます♪

ビュッ

あの…ご主人様？ 潮をこれからもご主人様の側で、

専用の牝奴隷として飼っていただけですか？

あ、あの、ごめんなさい！

でもご主人様が望むなら何でも…だから…。

んん



これからも、潮のこといっぱい可愛がってください♡

あ、あの、ご主人様、よろしくお願いします♡♡♡

高雄：私たちが言うことを聞けば本当にあの人……

提督に危言はくわえないと約束してくれるのでしょよね？



愛宕：や……約束は、ちゃんとしてくださいわね？

高雄…きやあ！ なんですか、「これは!？」

愛宕…あん！ やめてったら！ なになになにっ!？

愛宕…ええ、これを私たちに飲めっというんですか？

なんだかヌルヌルしてる……

高雄…うう、でもこれもあの人のため……

愛宕がんばりましょう！



愛宕：んぐう……んっ、うええん、苦いッ……！

(でも、この味……イヤじゃないかも……?)

高雄：んっぐ、んぐ……うえええ、なんて味……。

(なんですか!?! か、体が熱くなって……!)

高雄………は？ なんですって……。

しばらく私たちの食事はこれだけですって!?!?

愛宕：ああん、やだやだっ！

こんなの毎日飲まされたら私おかしくなっちゃっ！





愛宕：ばんばかばーん♡

やっぱりご主人様のおチンポは素敵ね♡

高雄：ええ、そうですね、愛宕……

今日もご主人様のザーメンをいただきましょう♡

愛宕：うふっ、私たちもうこれがないと

生きていけないんです♡ ねえ、高雄……うふふっ♡

高雄：ええ……え、提督のことはいいのかって？

もう、ご主人様ったら……

馬・鹿・め、と言ってさしあげますわ♡

愛宕：あーん、そんなのはどうでもいいからあ……
それよりもご主人様？

私たちのこのいやらしいデカパイで

沢山ご奉仕しますから……

ご主人様のザーメンくださいなっ♡

高雄..はむっ、あむあむ.....

ご主人様の先づぼをなめてあげましょう、れるれる.....
たくさん、気持ちよくなってくださいね♥

愛宕..あぁっん、高雄っ！ 抜け駆けはだめよぉっ、
私だってなめたいんだから.....ぺろぺろっ♥





高雄..んんっ.....！ そんなに、出そうなんですか♡

どっどっ.....好きをただけ私たちにかけてください♡

愛宕..あんっ、すごおらしい☆ すんすん.....

はあ、臭いも強くなってきた.....

じゅるり、よだれがでちゃうわ♡

高雄…きやあああつ！ ああ、なんて勢いのよい♡

それに、スウー……素敵な臭いですわ♡

愛宕…あぐん、私たちの口だけじゃ受け止めきれないわ！

もったいたい……「ぼれつちやったザーメンは

このグラスに……つぶぶつ♡



高雄…まあっ、なんておいしそうなんですか……

早く飲みたいですわ♡

愛宕…うんうんっ、私も早く飲みたあぐん♡

愛宕：はあ、幸せ……あんな、

へたし提督のところに行ったら一生味わえなかったわ……

ありがとうございます、ご主人様♥

高雄：ええ、あのまま

あの人の言いなりになんてなっていたらと思うと……

ゾットしてしまいますわ……

高雄：けれど、これからはご主人様専用の肉奴隷となって……

……身も心も、あなた様だけのものですわ♥

愛宕：好きなきに私たちを使ってくださいねえ♥

高雄と一緒に、私がんばっちゃいます♥

愛宕&高雄：それでは……

ご主人様のザーメンカクテルにかんぱーい♥





「こんなことをしても無駄です！」

「私を捕らえたところで作戦の情報を

明かしたりしません」

「ふふ、元氣そうで何よりね妙高姉さん♥」

「その声は、足柄！？あなた無事なの！？」



「きゃあーっあつ足柄!? あなたと」に顔をあてるんですか!？」

「どっって? 妙高姉さんのかわいいお尻よ!？」

「だって私、ご主人様から妙高姉さんの

調教をまかされたんですもの!？」

「ち、調教って! あなた足柄に何をしたの!？」

「もう、妙高姉さんってば、

ご主人様にそんな回きいちゃ駄目でしょ?

そんなこと言う妙高姉さんにはお・し・お・き!？」



「きゃあっ！？あっ足柄！やめなさい！？」

「だーめ♡妙高ねえさんが素直になるまでやめてあーげない♡」

「覚悟してね♡イキたくてもイキたくても、

イカせてもらえない、地獄の快樂を味合わせてあげる♡」

「ああっんっ…た、耐えて見せます！

私たちにはあの方が待っているのですから…！」



「も、もうらめれす♡お願い足柄！イカせて下さい♡」

「三日も耐えるなんてさすがね♡妙高姉さん♡」

「でもイカせて欲しかったら、

さっさと主人様に忠誠を誓っちゃいなさい♡」

「はい♡」主人様に忠誠を誓います♡」

「作戦の内容も、配置も全部喋りますからお願いします！

イカせてください♡」

「ふふ、よく言えました妙高姉さん♡」

「主人様が御褒美に妙高姉さんに最高の快楽をくれるみたいよ♡」

「…ふえ？」



(な、なんです「これ？なにかが私の中に広がって!？」)





「ああっ私の」の姿…」

「ふふ、これで妙高姉さんも私たちと同じ♡

前よりも素直に気持ちよくなれるわ♡」

「前よりも…気持ちよ〜…」



「ほら？今度はイジワルしないでイカせてあげる♡
それと妙高姉さんの可愛いアソコも舐めてあげる♡」

「ひゃあ♡あんっ♡気持ちいです♡もっ♡もっ♡と激しく♡♡」

「妙高姉さんエッチすぎ♡いいわイツちやいなさい♡」

「ああんっ♡もうダメっ♡イクツイキます♡♡♡」



「ひゃあ〜♡♡♡」

「あはっ♡すこい！お潮がこんなに♡私の顔もベタベタよ♡」

「はあ…はあ…すこく気持ちよかったです…♡」

「こんなこと…初めて…♡」

「まだよ妙高姉さん♡妙高姉さんが堕ちた記念に」

「ご主人様が私達二人を抱いてくれるみたいよ♡」

「ふえ？ご主人様が？…ああっ♡」

「あのような凶悪なものでされたら私どうなってしまうのでしょうか♡」

「こうなったら、那智も羽黒もこちら側に連れてこないと♡」

「ふふっそうですね♡」

「やはり私達姉妹四人は一緒にいませんと♡ですからその節は…」



「姉妹たちもよろしくお願ひしますね♡」主人様♡♡♡」

（不覚です、鎮守府の皆さんが人質になったとはいえ
大和が捕縛されてしまうとは…）
（しかも、人質の皆さんの前で、
こんな恥ずかしい踊りをしなければならぬなんて…）

か
本
本
本

「い、いえ何でもありません、
それより大和が言うことを聞いたら約束は守ってくださいね、
みんなには手を出さないと…」

「きゃっ、な、何ですか!?! オマンコが急に熱く」

「んっ…あなた、大和に何をしたんですか!?!」

「えっそのこのボタンを押さないと止まらない!」

「ダメ…下着が擦れて…このままだと…」

「誰か…たすけ…」

ぞくぞく

「おい、あいつ俺らが捕まってるのに「マン」濡らして
「いらそー! お前には娼婦の真似事がお似合いだ」
「…えっ…」

(なんで皆さんそんな事いうんですか?なんで誰も助けしてくれないんですか?)

「大和は皆さんを守るために必死に…」


(ああ、そうか、皆さんにとって大和は慰み物でしかなかったのですね…)

(普段は綺麗ごとばかり言ってるのに…)

大和が守ってきたのは、こんな人達だったのですね…だったらいっそ…)

「…わかりました、大和はあなたに忠誠を誓います…
ですからこの疼きを満たしてください」





『ああ、大和の中が変えられていく…でも後悔はありません…
もうあんな人達を守るのもうイヤです!』

「これが…新しい大和…」

「んっ…気持ちいい♡大和の中から力がわいてきます！ご主人様、感謝です♡」

「えっ？この姿でエッチなダンスを踊ってぶっ掛けられてる姿が見たいんですか？

フフツ、承知しました♡」

「あん♪ご主人様だけじゃなくて、こんなに大勢のゴミに

大和のエッチなところを見られて興奮しちゃいます♡」

ニヤ



「皆さん、ご主人様のお許しが出たので、

その汚い精液を大和にぶっかけてください♡」



「ダメ♪興奮しすぎてイッちゃいます♥」
「ダメダメ、イクぅ~~~~」♥



「はあっはあっ♥どうでしたかご主人様♥大和のエッチなダンスは？」

「ありがとうございます！でしたらご主人様？ご褒美をいただけませんか？」

「フフツこんな所より、お部屋でゆっくり大和の処女をあじわってください♥」

「えっ？捕虜の皆さんですか？…フフツ心配には及びません、ちゃんと全員…」

ビクビク

オオオオ

「沈めますから……♡」





「ここにきてから毎朝、毎朝…朝食を持ってくるたび、
なぜあなたにつきあわないといけないんですか？」

「い、いえ、文句なんて！私何でもいうこと聞きますから、
駆逐の子たちにはひどい事しないでください」

「はい…、鹿島のオ、オマンコにご主人様の好きなようにお使いください…」

ポッ



「んんっ、いや、そんないきなりズボズボしないで、
そんなに突かれたら私、我慢が…」
（こんなこと嫌なはずなのに、ペニスで突かれるたびに
段々癖になってきてる…）」
「えっ！？中に出すって…！だ、ダメです！そんなことをされたら私…！」



「ああっ熱いのが入ってきてる……」

「でも、なんでー？気持ち悪いどころか、もっと欲しいらと思っちゃっ……」

「えっ！？あなたの女にならないとこれ以上はもうしないー！」

「ダメよ鹿島そんな言葉に乗っては……でも……」

「うっっわかりました、鹿島をあなたの女にしてください！」

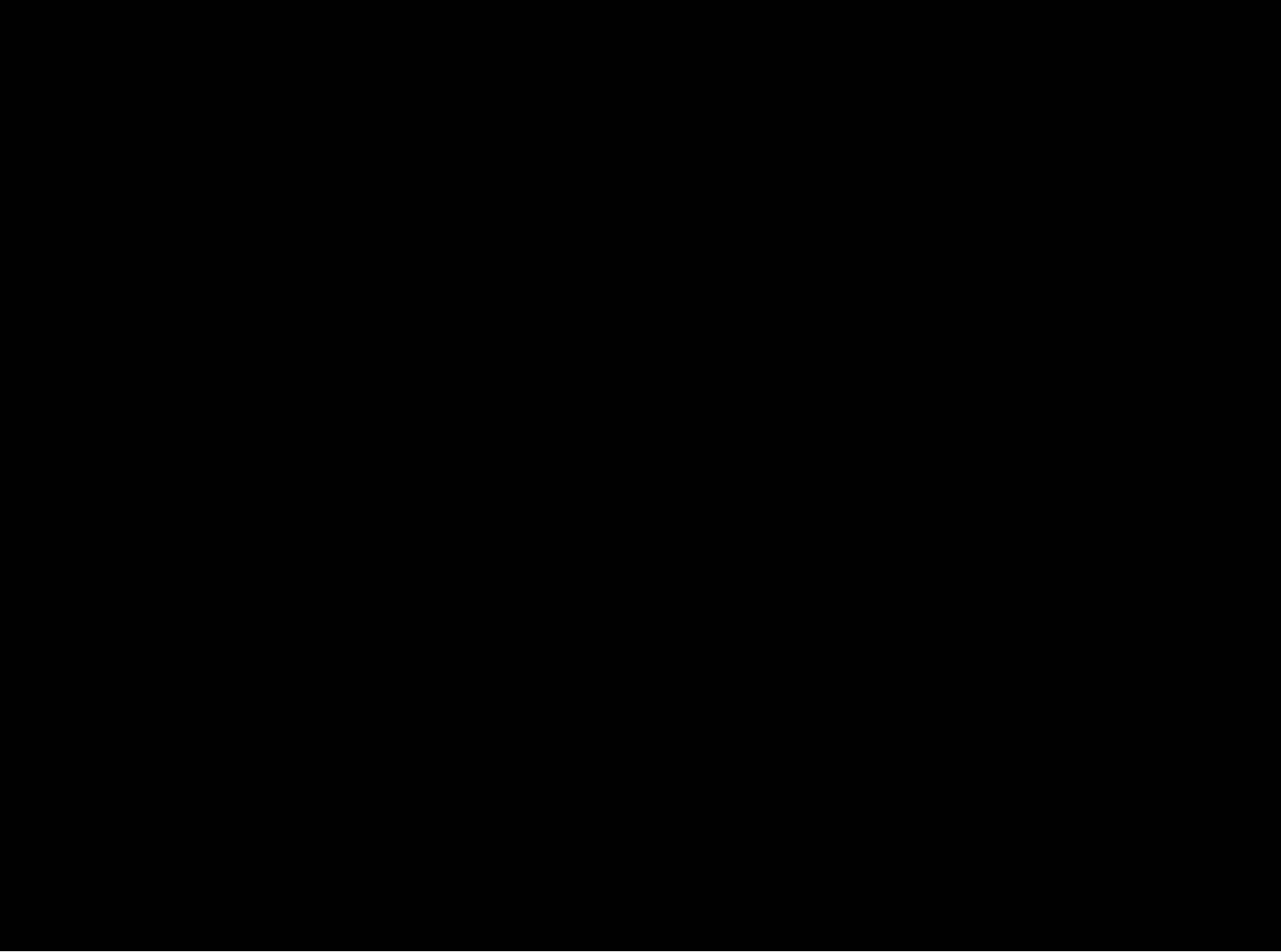
「私、もうこれがないとダメなんですー！」



「なにこれ、私の中から気持ちいいのが広がって」
「駆逐のみんな、ごめんね、鹿島は自分の欲望に負けてちゃった…」



「♡♡♡♡♡。うん。うん。うん。うん。うん。」





「うふふつご主人様♥おはようございます♥」

「今日も私、鹿島がご主人様の朝の奉仕をさせていただきます♥」

「えっ? 「朝からエッチだな」ですか…」

「んもう、鹿島をこんなエッチな娘にしたのはご主人様じゃないですか♥」



「それよりも聞いてください♥

また私の『教育』した娘が、敵を撃破したんですよ♥」

「えっ？褒美に今日は一日中抱いてやるってーマ」

「うんうんうんうん♥」

「それでは、ご奉仕を始めますね♥」



「はあっ...はあっ...出てます♥

ご主人様の濃厚サーメンが鹿島の中も外も満たしています♥」

「うふふっ朝食に持って来たサンドイッチにかかってしまいましたね♥」

「すぐに新しいものを持ってきますので、これは私がいただきますね♥」



「はむっはむっ、んん〜おいしいです♡

やはりご主人様のザーメンの味は最高です♡」

「濃厚で、フリフリしてて、私、これがないと朝が始まらないんです♡」

「えっ？自分で食べるつもりで持ってきたんだらうって？

うふふっ内緒です♡」



「朝食を済ませましたら、また鹿島を愛してくださいね♥」

「どんな変態的なことでも私、頑張ります!」

「だって鹿島は、ご主人様に身も心も捧げた奴隷なのですから、うふふっ♥」

「ご主人様、艦隊が帰投したわ！」

「えっ、戦果？フフツ、私、足柄がいるんだもの！」

「当然の結果よね！大勝利！」

「ねえ、今日のご褒美はこのオチンポを思う存分舐めたいわ♥」

お
ち
ん
ぽ



「あは♥じゃあまずは軽くいくわよ」

「れろれろ……ぺちやぺちや、ぺろろ、んっっ♥」

「軽く焦らされながらされるのもたまにはいいでしょ？」

「れろっ……れろ、れえろ♥」

「んっ、ちゅっ♪そろそろ唾えるわね♥」

んっ♥
ちゅっ♥

「それじゃあ、いったただきまゝす♥」

「じゅっぽ、じゅっぽ……!!ちゅばっ……」

ちゅばばっ、ジユボジユボジユボッ

「どう?私のフェラチオ、ちゅ、なかなかうまくなってきたでしょ♥」

んーちゅ、んちゅ」

「主人を気持ちよくするのが牝犬である私の喜びですもの♥」

んちゅ、ちゅ……ちゅばっ」

ぶちよほい

ぶちゅぶちゅ

ぶちゅぶちゅ



「全然萎えないわね、うふふっ♡」

「それじゃあ次はお掃除フェラね♡」

「あくんっちゅぼ……ちゅぼ、ちゅぼっ、ふうーっ」

「れろ、れろっ……じゅっぶ、じゆる……れろっ！ れえろ……」

「れろろんっ、れえろん、ちゅぼっ」

ぐんぐんぐん

ちゅぼっ



「うふふ♪きれいになったわ!」

「ねえ、ご主人様♥、今度は私の顔にかけて欲しい♥」

「ご主人様の匂いを私に染みこませて欲しいの♥」

「さっすがご主人様!よし!私、足柄の全力でお相手するわね♥」

ふはっ♥



じゃあ次はベッドでシックスナインなんてどう？」

「うふふっ♥そうと決まればベッドにゴーよ♥」

ド
ロ
ロ





「目が覚めました？あの子たちの尋問にも
口を割らないなんて、すごいですね」

「でも、私の尋問にも耐えられるかしら？」

「うふふっ、楽しみ♡」

「えっ？なんで局部をさらしてるのですか？」

「うふふっすぐにわかりますよ♡」



くっ
あ♡

くっ
あ♡

「ほら、頭をオマンコに押し付けちゃいますよ」

「くるしいですか？早く喋ったほうがいいですよ？」

「このままじゃ窒息しちゃいますよ」

「んっ鼻がこすれて私も気持ちいいから」

「このまま擦っちゃいますね」

「あ、あんっ♪もう、頑固ですね、」

「あなたが喋る前に私がイツちゃうじゃないですか」



「ああん♪出ちやいます、お潮吹いちゃってます♥」

「うふふつあなたが喋らないからイツちゃったじゃないですか♥」

「こんなにお顔にかかって、それにお口にも…」

「え？飲んじやったんですか？」

「あら、それは残念もう少し楽しみたかったのに……」



「私の体液には男性を虜にする効果があるんですよ♪」

「簡単に堕ちたら、つまらないから後にしようと思ったのに…」

「えっ？嘘じゃないですよ♪」

「その証拠にもう頭がボーっとしてきませんか？」

「ほら、たとえばこんなことをされても……」

ハク...



ニヤニヤ♡♡♡♡♡

「はああん♡」

ほら、私にオシッコをかけられて悔しいはずなのに、

うれしくてたまらないですよね？」

「うふふっ♡そんなに必死に飲んじやって、かわいい♡」

「あなたかわいいから、ちょっとだけサービスしちゃいますよ」



「んんっどうですか？私のオマンコが、

ウネウネとあなたのオチンポをシゴいてますよ？」

「最高ですよね？私もあなたがたの側に居たころには
知りもしなかったことです♪」

「あの方が私にこの快楽を覚えてくれたんですよ♪」

「あら？そろそろ出そうですか？」

「それなら私の中に出してください♡」



ビュルルルル

「ひああああ、出てます♥

白くてネバネバしたものが私の中に♥♥♥」

「暖かくてきもちいいです♥うふふっ最高だったでしょ…

って? あらあら、もうトロトロになっちゃいましたね♥」

「それじゃあ、そろそろ本題に入りましょうか?」

「あの鎮守府に配備されてる

戦力と艦娘の情報を教えてください」

「それから、瑞鶴がどこに今どこにいるのかも…ね♥」



「うふふっ、なるほど、瑞鶴もそんな所にいたのね、それは早速ご主人様に報告しなくっちゃ♪」

「今度のご褒美はどうしようかしら♥」

瑞鶴と一緒に一晩中可愛がってもらったのもいいわね♥」

「そのためにも早く瑞鶴を捕まえなくっちゃ♪」

「えっ？あら、すみませんあなたの今後ですよね、」

心配しなくても大丈夫ですよ♪」



「ご主人様の命令で情報を聞き出したら、
処分しろとのこと、後でみんなの練習の
的になってもらいます♪」

「ではお疲れ様です♪」

最後のひとときを楽しんでくださいね♪」



「んっ、どうですか、ご主人様？ 榛名の膣内は♡」
「はい、よかったです♡ご主人様の喜びは榛名の喜びです♡」
「ご主人様が望むことなら榛名は何でもします♡」
「でも、最近榛名は少しさびしいです……。」

はい♡
はい♡
はい♡

はい♡



「仲間が増えたこととはうれしいのですが、

ご主人様に可愛がってもらおう回数が減ってしまっ…」

「もちろん、榛名が一番可愛がってもらってらるので

贅沢を言っているのわかってるのですが」

「それでもやっぱり寂しいです…」



「えっ？そんな…榛名には、もったくないです…嬉しいですよ」

「ご主人様は優しいんですね。榛名に気を遣ってくださって♪」

「はい、榛名は大丈夫ですよ♪ご主人様の好きなどころに出しててください♪」

モウハビ♡

「んっ？まだされるのですか？…」

「えっ！？榛名がさびしくくないように

今日は孕むまでしてくれるのですか？」

「そんな！？でも、榛名にはもったいないです…」

いえ、とてもうれしいです♥」

「では、ご主人様、榛名に赤ちゃんが出来るよう、
いっぱいザーメンをください♥」

ぽろぽろ…

「ひゃああああつ、はあ……はあ……はあ……出てます…

様名の中にご主人様の赤ちゃんの素が…♡」

「うふふっいっぱい出ました♡…

でも、まだまだ赤らちゃんできたかわかりませんね♡」



「今夜は様名をいっぱい可愛がってくださいね♡」

ジュルジュル



「もし、娘ができたら、そのときは母娘でいっぱいご奉仕しますね♪」

「うふふっ、今から楽しみですよ♪」

「きつと榛名に似て、とってもエッチな娘ですね♪」

「そのためにも、榛名、がんばります!」

んんん♡

んんん♡

んんん♡



「ああんっ、はあんっ、出したばかりなのに激しい♡」

「んんっ素敵です♡がんばって榛名たちの娘を作りましたようね♡旦那様♡♡♡」

はあし

あん♡

はあ♡

あん♡

あん♡

あん♡